

平成30年度 東京都立大森高等学校 学校経営報告  
(全日制課程)

校長 西村 伸二

I 今年度の取組と自己評価

1 教育活動への取組と自己評価

<生活指導>

目標と方策

生活指導統一基準を基に、挨拶の励行、ルールを守る、身だしなみを整える等の学校生活における基本的な生活規律を適切に指導し、規範意識と自立心を育てる。

授業開始のチャイムと共に授業を開始することなどを通じて、授業にきちんと取組む姿勢をつくる。

時間の切り替えと集中を徹底して指導し、家庭での学習時間を確保できる生活サイクルを確立させる。特に、定時制との施設共有の意味を理解させ、午後5時の下校時刻を意識させる指導を徹底する。

生徒の問題行動等への対応において、保護者や関係機関と連携・協力できるサポート体制を確立し、生徒の健全育成を図る。

体罰の根絶やいじめの未然防止、早期発見、早期対応に向け、学年を超えた連絡体制を構築するとともに、スクールカウンセラーを活用し、生徒一人一人の心の健康に対応できる相談体制を確立する。

我々は教育のプロとしての誇りと自覚を基に、深い愛情をもって生徒一人一人の理解に努め、ならぬものはならぬのですと毅然とした粘り強い指導を徹底していく。

生徒に身に付けさせる規律・規範として以下の目標を確認する。

- 公共の場や交通機関でのルールを守り、国際社会に通用するマナーを身に付ける生徒
- TPO（時・場所・場合）に応じた身だしなみや所作がきちんとできる生徒
- 相手の立場を踏まえた適切なコミュニケーションができる生徒
- 時間を意識して行動する生徒
- 授業規律を守る生徒

- (1) 学校内の決まりや指導方針を明示して生徒・保護者の理解を図り、特別指導基準の明確化と公正な運用により毅然とした対応を徹底する。
- (2) 全ての教員の指導がぶれることなく、「当たり前にするべきこと」を徹底して実施する。
- (3) 時間を意識して行動できるようにするために遅刻指導、及び授業規律を確立して授業の中抜けに対する指導をホームルーム指導、教科指導と連携し、徹底する。
- (4) 登下校時の交通ルール、特に自転車通学者への道路交通法の周知及び徹底を図り、事故を未然に防ぐ。また公共交通機関における車内マナーの遵守を周知・徹底する。
- (5) 東京都オリンピック・パラリンピック教育実施方針に基づき、家庭、地域社会、関連機関等と連携する。
- (6) 人権尊重の精神を踏まえ、教師による体罰、暴言及び行き過ぎた指導を根絶する。
- (7) お互いの思いやりの気持ちを醸成し、本校のいじめ防止基本方針を踏まえ、生徒間のいじめ防止、早期発見、早期対応に取り組む。

特別な支援、配慮を要する生徒に対しては、自立支援担当教員、スクールカウンセラー、養護教諭、担任との相互連携をさらに強化し、保護者と密接な連絡を取り、個別支援計画を作成するなどの手立てを講じてその生徒にとって最適な支援を行う。

また、自殺対策基本法（平成28年4月一部改正）及び自殺総合対策大綱（平成29年7月閣議決定）に基づき、生徒の自死を未然に防ぐ手立てを講じる。具体的には、LHRの時間に各担任から生命尊重の話をする、第一学期の終業式において、校長講話に生命尊重についての話を盛り込むとともに、各種相談窓口を印刷して全校生徒に配布する。

#### 取組と自己評価

- (1) 学校内の決まりや指導方針に関する保護者向けのプリントを作成し、HRを通じて配布し周知を行った。
- (2) 指導が教員によってぶれることのないよう、企画調整会議及び職員会議で生活指導方針について共通理解を図った。
- (3) 授業規律を徹底させることで、授業中の無断中抜けはない。
- (4) 登下校時の交通ルールを遵守することの大切さは、日頃のHR活動、安全教室など機会あるごとに周知を行った。
- (5) 宿泊防災訓練での地域消防団や町内会との連携や、オリパラ講演会で蒲田地区の企業と連携するなど、地域社会との連携を図った。また、体育祭や文化祭でPTA企画を実施し、家庭の連携も図った。
- (6) 体罰等の防止について、折に触れて教職員の意識啓発を行った。
- (7) 自立支援担当教員を中心に、HR担任、スクールカウンセラー、ユースソーシャルワーカーとの連携を強めるようにした

#### <学習指導>

##### 目標と方策

教科主任を中心に各教科で指導目標を定め、授業規律を徹底させた教科指導を実践するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業改善に取組み、学力の向上を図る。

引き続き学力向上研究校として個に応じた指導を充実させ、基礎的・基本的な学力の着実な定着と向上を図るとともに、今年度新たに「ゆめナビプロジェクト研究校」として教職員が生徒一人一人の進路希望や学力の状況を共有し、組織的に指導できる体制を確立させる。

また、体力気力鍛錬道場指定校として、体力の向上、健康的な生活習慣の維持等、心と身体の健康づくりに教科・教科外の活動を通して取組み、生徒の健全育成を図る。

そのために、スクールカウンセラーを活用し、特に心の健康に対応するとともにユースソーシャルワーカーとも連携して相談体制を確立する。

さらに、校内の環境美化を推進し、生徒の健康と安全への関心と自覚を深める。

- (1) 都立高校学力スタンダードに基づいた年間授業計画を作成し、週ごとの指導計画で適切な進行管理を進めて教育活動を推進する。
- (2) 授業を受ける姿勢や態度について指導を徹底し、授業規律を確立する。
- (3) ICT機器を活用した授業を促進し、興味・関心を高める指導内容・指導方法を工夫し、生徒が主体的に学ぶ意欲を高める。
- (4) 習熟度別授業や少人数授業を拡充し、学ぶ喜び、成就感、達成感を体得させ、自主的に学習に取り組む態度を育成する。

- (5) 長期休業日中の補習・講習を、組織的・計画的に実施するとともに、アドバンスコース受講生の拡大を図り、学力向上を目指す。
- (6) 東京都オリンピック・パラリンピック教育実施方針に基づき、テーマ及びアクションを組み合わせた取組を進める。

#### 取組と自己評価

- (1) 年間授業計画の基、適切に教育活動を行った。
- (2) 授業始業時に、携帯電話を鞆にしまわせるなどして、授業規律の確立に努めた。
- (3) 若手教員を中心に I C T 機器を活用した研究授業を実施し、I C T の効果的な使い方を研修した。
- (4) 習熟度別展開授業や少人数制の授業など、きめ細かく授業を展開することができた。来年度も引き続き、生徒同士の深い学びを実現させる手立てを模索する必要がある。
- (5) 長期休業中、16講座延べ388名が講習を受講した。補習は、各定期考査前に教科ごとに実施した。
- (6) オリンピック・パラリンピック教育については、森高祭にて、オリンピック・パラリンピックについての企画展示を行ったほか、12月にオリンピックメダリスト及びパラリンピアンを招いて講演会及びテコンドー体験を実施した。

#### 進路指導

進路指導部を中心として、3年間を見通したキャリア教育を計画的に実施し、生徒の進路意識を高めるとともに、広い視野で社会を見る眼を育てる。希望する生徒を対象にしたインターンシップを企画立案し、実践する。

また、生徒の進路希望に応じた補習・講習の充実を図り、講習の実施方法を工夫し、第一志望をあきらめない生徒を育てる。

さらに部活動や学校行事との両立を図りながら、適切に学習を進められるよう計画的な時間管理と家庭学習の習慣を確立させる。

- (1) 各学年の進路ガイダンスを充実させ、生徒の進路実現への意識を高める。
- (2) 「進路の手引き」や今年度より新たに導入する自校作成の「進路ノート」を活用した進路 HR を充実させ、生徒自らが主体的に進路希望を選択・決定させる。
- (3) 進路カルテや学習計画表を作成させ、進路にかかわる情報を迅速かつ的確に、生徒や保護者に提供する。
- (4) HR 担任と生徒・保護者との三者面談を実施した結果を拡大分掌会議にて情報共有を図り、生徒・保護者の希望を的確に把握し支援する。
- (5) 就職面接や A O 入試、推薦入試における面接試験時の自己 P R の一助となるように、各種検定を積極的に受験させるための指導体制を整える。

#### 取組と自己評価

- (1) 1、2年生においては、各学期に一回進路ガイダンスを実施し、進路意識の啓発を図った。
- (2) 「進路ノート」の活用により生徒が主体的に進路を選択することができるようになった。さらにホームルームを充実させ、キャリア指導を伴った活動を行うことが課題である。
- (3) 進路に関わる情報の示し方に工夫が必要である。
- (4) 三者面談は各学年で実施し、生徒本人、保護者と HR 担任との情報共有を図った。
- (5) 教務部、進路指導部及び英語科が連携し、英語検定をはじめパソコン検定や漢字

検討等の受験者数が増加した。今後は組織的に体制を確立することが課題である。

### 特別活動・部活動

部活動を活発化させ、生徒が活力ある学校生活を送ることができるようにする。そのことを通じて、人間関係や社会性を育む。

- (1) 学校行事を充実させるとともに、部活動の加入率を高めて活性化させ、生徒一人一人の特性に応じて活動できる場を確保し、成就感や達成感を体得させる。
- (2) 他学年との交流を通して互いを認め、尊重し、協力し合う人間尊重の精神を培う。
- (3) 小・中学生とのスポーツ・文化交流を行い、小・中学校との連携を深め、「地元の小学生や中学生が憧れる学校」となることを目指す。
- (4) 地域社会の事業に積極的に参加し、社会性や社会に貢献する姿勢を育てる。また地域住民への施設開放や公開講座の開講をとおして本校の教育資産の幅広い活用を期する。

### 取組と自己評価

- (1) 部活動加入率はやや下がったが、個々の部活動実績は向上している。女子バレー部が東京都高体連夏季大会でベスト3 2他、柔道部が東京都学年別柔道大会2年生の部女子で第3位他、ダンス部が全国大会で審査員特別賞に入賞するなど充実した年となった。
- (2) 体育祭や森高祭において、他学年との一致団結による協力体制を敷くことの大切さを学ばせることができた。
- (3) 部活動において近隣中学校生徒の体験入部や合同練習を実施した。
- (4) 池上ガーデンパーティーへ、吹奏楽部、ダンス部、クッキング部が参加し、地域活動に貢献した。また、硬式野球部が地元の祭において駐輪場の整理を手伝ったり、通学路清掃などのボランティア活動を行ったりした。

### 募集・広報活動

効果的・効率的に教育方針、教育内容等を積極的に発信する。

- (1) 中学校及び塾を効率的に訪問し、本校の特色ある教育活動をPRする。
- (2) 学校説明会を年間3回実施するとともに、夏季休業中に学校見学会及び部活動体験会を実施する。また、合同説明会に年間3回参加する。
- (3) 学校のホームページを時を逃さず更新し、積極的な情報発信を徹底する。
- (4) 出前授業、出張説明会を計画的に実施する。

### 取組と自己評価

- (1) 中学校へは、昨年まで1年生に母校訪問という形で訪問させていたが、今年度は教員が授業DVDを持参し落ち着いた授業を行っていることをPRした。塾は、副校長が夏休み中に訪問した。来年度は、塾訪問を組織的に実施することが課題である。
- (2) 全て予定通り実施した。来年度は、実施内容について見直し、より充実した学校説明会になるように企画・立案する。
- (3) ホームページは、100回以上の更新で適時に行うことができた。
- (4) 出前授業等については個別に対応し、2件行った。組織的な対応が課題である。

### 学校経営・組織体制

企画調整会議を中心として、各分掌内部及び各組織間の連携を強化し、カリキュラ

ム・マネジメントを適切に実施して円滑な組織運営を図る。

全ての教職員が学校運営への参画意識をもち、それぞれの役割を確実に果たす。

また、学校における働き方改革推進プランに基づき、教職員の平日における在校時間を減少させるように共通認識をもつ。そのために、今年度も引き続き退勤時刻の打刻をとおして教職員の在校時間の把握に努め、ライフ・ワーク・バランスの実現に向けて取り組む。

- (1) 学校経営計画・分掌組織目標と個人目標の整合性を図り、課題を共有することにより意識を高める。
- (2) 企画調整会議で分掌と学年の連携を深め、課題を共有化し、協働体制を強化する。
- (3) 各分掌が年間計画・年間報告を作成して継続的な改善を目指す。
- (4) 校務の手引きを更新し、さらに分掌業務内容の共通理解を深める。
- (5) 教育公務員としての使命と職責の重さを自覚し、体罰の禁止や汚職等非行防止研修で服務規律の理解を深め、自己点検を実施し意識を高める。
- (6) 経営企画型の事務業務への転換をめざし業務内容を見直し、企画調整会議で検討し教員、事務職員の意識改革を図る。

#### 取組と自己評価

- (1) 各自の自己申告において、学校経営計画のどの項目を自己の目標に取り入れるかを記号等で対応させ、到達目標を明確化した。
- (2) 企画調整会議での議論は停滞していたが、分掌主任会議を企画し、分掌間の連携は図られた。
- (3) 拡大分掌会議を開催したが、連携を強めるまでには至らなかった。来年度は拡大分掌会議が有効に活用できるよう、学年副担任に各 4 分掌の教員を配置する。
- (4) 校務の手引き、特に生活指導上の各項目を見直し、改善を図った。
- (5) 来年度も引き続き、体罰等防止に向けて教職員の意識向上を図る。
- (6) 来年度も引き続き、経営企画室の学校経営への参画を推進する。事務作業の効率化は推進したが、依然人員不足は解消できていない。

## 2 重点目標と方策

生徒の定着率を高め、進路未定者を減らし、希望進路実現を図るために以下の方策と数値目標を定める。

- (1) 教科主任を中心に各教科で指導目標を定め、授業規律を徹底させた教科指導を実践するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現させるための授業改善に取り組む、学力の向上を図る。

- ・各学期に一回、研究授業を実践し全教員による研修会を実施する。
- ・中・高連携の取り組みを一層強化して、近隣中学校教員と年 3 回の授業研究、研究協議等を通じて、生徒の発達段階に応じた効果的な指導方法について、相互に学び合う。

- (2) 週休日・休業日に計画的に補習・講習を実施し、基礎学力の向上を図る。

休業日中に組織的に補習・講習を計画し、基礎講座及び進学講座を 1 2 日間行うとともに、参加者 2 3 0 人以上を目指す。

#### 【数値目標】

項目	目標	29 実績	28 実績	27 実績
基礎講座、進学講座 受講者数	12 日間 230 名以上	10 日間 221 名	22 日間 304 名	19 日間 429 名

(3) 組織的にキャリア教育に取組み、入学当初から目的をもたせて進路実現を図る。

- ・進路 HR で「進路の手引き」や今年度より新たに導入する自校作成の「進路ノート」を活用して自己理解を深め、在り方・生き方を考えさせ進路を主体的に選択・決定させる。

【数値目標】

項目	目標	29 実績	28 実績	27 実績
四年制大学、短期大学への進学率	30%以上	26%	30%	27.4%
進路未決定率	20%以下	24%	16.5%	13.7%

(4) 目標を定め、目的をもって学校生活を送らせる。

- ・個人面談週間を設けて個人面談を充実させ、生徒理解を深める。
- ・担任及び自立支援担当教員を中心にスクールカウンセラー、ユースソーシャルワーカー相互による教育相談を活用し、相談体制を充実させる。

【数値目標】

項目	目標	29 実績	28 実績	27 実績
1 年次の中途退学者数	9 人以下	14 人	34 人	41 人

(5) 毅然とした粘り強い指導を徹底して社会的自立を育む。

- ・身なり服装の指導、遅刻指導、清掃指導を徹底する。

【数値目標】

項目	目標	29 実績	28 実績	27 実績
特別指導件数	10 件以下	15 件	28 件	6 件

(6) 学校行事、部活動を活性化し、成就感や達成感を体得させる。

【数値目標】

項目	目標	29 実績	28 実績	27 実績
部活動加入率	63%以上	62%	66%	61.0%

(7) 効果的な募集・広報活動を行う。

- ・全教職員で中学校及び塾を訪問し情報を提供する。
- ・ホームページを毎月更新し一層充実させ最新の情報を発信する。
- ・本校における学校説明会を 3 回、合同説明会を 4 回、授業公開を 3 回実施する。

【数値目標】

項目	目標	29 実績	28 実績	27 実績
最終応募倍率の向上	1.3 倍以上	0.67 倍	1.39 倍	1.17 倍

取組と自己評価

- (1) 主体的・対話的で深い学びを実現するための準備が進んでいる教科とまだこれからの教科がある。どのような力を身に付けさせるのかを教員全員で共有し、各教科で取り組むために研究授業の充実が必要である。

(2)

項 目	30 実績	29 実績	28 実績	27 実績
基礎講座、進学講座 受講者数	16 講座 388 名	10 日間 221 名	22 日間 304 名	19 日間 429 名

(3)

項 目	30 実績	29 実績	28 実績	27 実績
四年制大学、短期大学 への進学率	18.2%	26%	30%	27.4%
進路未決定率	6.6%	24%	16.5%	13.7%

(4)

項 目	30 実績	29 実績	28 実績	27 実績
1 年次の中途退学者 数	18 人	6 人	25 人	6 人

(5)

項 目	30 実績	29 実績	28 実績	27 実績
特別指導件数	31 件	15 件	28 件	6 件

(6)

項 目	30 実績	29 実績	28 実績	27 実績
部活動加入率	58%	62%	66%	61.0%

(7)

項 目	30 実績	29 実績	28 実績	27 実績
最終応募倍率	0.91 倍	0.86 倍	1.39 倍	1.17 倍